



20

5月 ボラドール

空から舞い降りる 鳥人たち



メキシコ
MEXICO

メキシコ湾に面したベラクルス州のパパントラ。この地域の周辺に住むトナカ族は毎年5月、ボラドールと呼ばれる「鳥人の儀式」を行う。

高さ30〜35メートル近くあるポール。先端から伸びるロープに4人の舞手が逆さまに結ばれ、てっぺんからゆつくりと円を描きながら降りてくる。頂上に立つ男の笛と小太鼓の演奏が始まると、ロープが回転とともに伸びるという仕掛けだ。時間にして約2分。見事に地面に舞い降りた者には、鳥人の称号が与えられる。

古代メソアメリカ文明の時代、周辺種族に継承されていた雨ごい行事が、現在のトナカ族に受け継がれた。4人の舞手は東西南北の風を象徴し、頂上の男は太陽神を仰ぎ五穀豊穡を願う。それぞれが13回転して地上に降りることにより、52という数字が生まれる。これは、52年に一度太陽が生まれ変わるとされるメソアメリカ文明の信仰に基づいている。

現在ではトナカ文化を伝えること、観光収入をもたらすことが目的のこの儀式。世界遺産のエル・タヒン遺跡、首都メキシコシティの国立人類学博物館前など各地で定期的に行われるようにもなった。2009年には、ユネスコの世界無形文化遺産として登録されている。